べき」よしの証文そうろうにこそ。 ろもろの煩悩おこる、智者遠離すかつは、「諍論のところにはも (真宗聖典六三二頁) 第十二章 続き

ていると云わないまでも、相手よ 込んでしまう。自分の云うことが 議論すると勝ち負けの世界に落ち ら、論争ではない。ところが、我々 すかるという意味が議論であるか 論破しようという煩悩がおこる。 正しく、相手の云うことは間違っ はその道理のようにはいかない。 お互い仏法によって、目覚める、た 負けのためにするわけではない。 優れているというような意識で 第十二章の主旨ははじめのほう 仏教の議論というものは、



(第二十六回)

暁 講 述

する。 はなく、 る。 われるというのが浄土真宗であ る。本願の意義を深く聞いて納得 つの救いということを明らかにす れる。学問を中心にしているので いうのは聖道門的なものの考え方 な意味である。学問でたすかると 要なるべきや。」これが、 そのほか、 願を信じ、念仏もうさば仏になる。 をあかせるもろもろの聖教は、本 にあるように、 我々は本願力によって救済さ 信心成就したものはみな救 念仏申すこと、念仏ひと なにの学問かは往生の 「他力真実のむ 根本的

とけのはたらきによって、 いうような聖道門的な念仏ではな して観念の浄土を思い浮かべると 自分で学問して悟るとか、修行 そうすると、言葉となったほ 縁しだいで南無阿弥陀仏を申 我々の



光照寺寺報

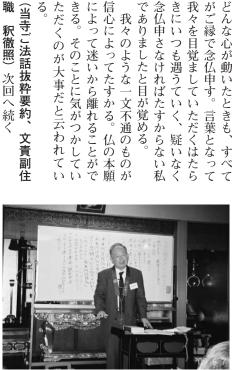
発行所 宗教法人光照寺

₹331-0821 さいたま市北区別所町102-2 電話:048-651-2781代) FAX: 048-651-2753 E-mail

yasuragi@beige.ocn.ne.jp ホームページ http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji

発行人 池田孝郎

闇が破 信心によってたすかる。仏の本願我々のような一文不通のものが きにいつも遇うていく、 我々を目覚ましていただくはたら どんな心が動いたときも、 も、いつでも、どこでも、誰でも、 ではない。どういう心が起こって 仏を修行の方法とするということ て、 でありましたと目が覚める。 念仏申さなければたすからない私 がご縁で念仏申す。言葉となって 生きていくことができる。 念仏を手段化するとか、 常に浄土の光に当たっ 疑いなく すべて



佐々木玄吾師 総会



ご法話とその様子

● 護持会総会報告 (当寺ご法話抜粋要約、 ,也是两个外面也是有一种的人,我们也是有一种的人的人,我们也是有一种的人的人,我们们们们们的人,我们们们们们们的人们的人,我们们们们们的人们的人们的人们的人们的人们的人们的人们的人们的人们的人们的人们 釈徹照)次回へ続く 員發期教習終了者感想 文責副 住

る。

ただくのが大事だと云われてい

八月 |日(日)午前·午後 厳修





たのです。

劇的な映画となったことです。 受賞した。日本の葬送の儀が世界 の人々に感動を与え、返りて日本 「おくりびと」がアカデミー賞を (が日本の文化に改めて気づいた のビックニュースとして

待ち受け上山」を全国津々浦々よ なたを生きている」と掲げ、「お 御遠忌テーマが「今、いのちがあ を二〇一一年に迎えるにあたり、 りご門徒の皆様が京都の本山へと 上山している。 私は「おくりびと」の中で、 親鸞聖人七百五十回御遠忌法要 父

> 込めて、「石文」として子に託す主人公の子供に「暗黙の願い」を じたのです。 って解読出来る不思議な伝統と感 を自らの子の誕生と、親の死によ が命題として受け取り、 の小石より、親が託した願いを子 された「伝統」の伝授であり、 示しているのに感動した者です。 る場面がストーリーの筋として暗 親が河原の形の良い小石を拾 この「石文」は祖先から子へ託 その意味 Z

と仰いだ時、一切から願われてい 文」であったと頂いたものです。 されているのに気づく伝統が「石 その背後の億々の祖先が「南無」 前に、親が子に「南無」され、又、 あったと思う。私が「南無」する には「南無阿弥陀仏」と記されて 許して頂くならば、その「石文」 と気づいたのです。独断と偏見を 於いて「南無阿弥陀仏」であった た私と気づいたのではないか。 子が親を、又、祖先を「諸仏」 私はこの「石文」が浄土真宗に

世界」が可能な世界は、 とばに、 とわかる。 きな男性が、最後に火葬場の職員 連の客でもあり、友人の将棋の好 親が銭湯を経営し、その銭湯の常 また、あおう」です。「又、遇う その証拠に、主人公の友人の母 だれにでも言う言葉、 その男性職員の常のこ

> 界は、 です。 ばれた人」のみでありましょう。 もありません。あるとすれば「選 浄土、 「石文」に書かれてあった文字 です。だれとでも遇える世 阿弥陀経にある言葉「倶会工、すなわち、「極楽浄土」 他のどの様な教えの世界に

> > ŋ

を感じました。 えを頂けば、「続話の矢」の喩え私はこの「おくりびと」より教 仏」の教えの伝統に共通するもの は連なり地に落ちない喩えです。 れば、次、次、次と矢を放ち、 又、天空を飛ぶ、又、落ちはじめ の人が矢を放ち、先の矢を支え、 ちはじめると、落すまじとして次 です。はじめの一人が天空めがけ て矢を放つ。矢が曲線を描いて落 私はこの「石文」の伝統と「念 矢

「連続無窮理」を憶うことです。行信証の安楽集の最後の言葉 となった『南無阿弥陀仏』が生き いる」のテーマの言葉とも通じ、 いまあり、全て仏法領と頂きます。 てまします」。現に今、感じます。 「今、この私に、願われた、言葉 気づけば願われたいのちとして 親鸞聖人の書きのこされた、教 「今、いのちがあなたを生きて の安楽集の最後の言葉、

は、最後は火葬場の職員の男性が

証明しているストーリーと理解し 真の依 処

たことが恥ずかしくなり御佛にお念佛を申すと愚痴を言ってい も幸せであり感謝に変わるでし ささえられていたことが何より 康で働ける環境にある方は佛様 ない膨大な恩に対するささやか は、その方々に返すことの出来 南無阿弥陀佛、働くということ 前人の労苦の結晶を受けている。 物に対する感謝がない、こうし す。賃金を頂いてお金の尊さとの為にだけ働くからだと感じま と思います。それに彼らは自分 思います。世の中の変化と改革 なお返しの一分であると考える 自分を見失ってしまう人もいる はいろいろ問題が上げられると が減退してしまったのか‼それ に感謝を申し上げお蔭様(~と べきではないかと思います。 て生きていることはさまざまの にミスマッチの点も多大であり、 世の若者はどうして働く意欲

岡田ノリ子

首 0) うことでもあります とは、思い た自分に出遇うとい 教 えを聞くというこ もしなかっ 伊藤

(『法語から読む宗祖親鸞聖人』)

0)

さ

せ

頂きま

した。

自 身、 |誓文」清書の役目は、

引き受

えを依り所とした生活を一層

けたいと思う次第です。

推進員後期教習を終えて

だけでも感動の連続でした。前でも一潮の思いでした。その事たので、今回それが叶ったことなく心残りの一年間でありまし た北海道教区の敬徳寺の中岡明方は、私の青少年時代を過ごしの構成でした。教導にあたったは十名とスタッフ四名計十四名は一名とスタッフ四名計十四名 に受講のよる事が出 前導秀期の住 みつさんと一緒でしたので安心たが、光照寺から門徒の佐々木方達は出席しておりませんでし 年真宗会館 して欠席を余儀なくせざるを得 **小京教区** 期教習 のも 突然インフルエンザに感染 基礎を学ぶことでした。 職と長浜教区の多賀英樹補 月 とカ の出 から一 堂での晨朝参拝 の講義と座 来ました。 **昭の前期教習を受けた** 感動の連続でした。前 の思いでした。その事 ルリキュ 期教習奉仕団 席 (当受講 を決 義と座談会、阿弥ぶことでした。 教一貫した中で、真 十六日 奉仕 いめて ラムに従い、 は、 私は前 者内二名含 いたとこ とし 御影堂 :夕事勤 て 心教け 13

三年間でした。終盤は、宣誓文作成(翌朝阿弥陀堂での宣誓文作成(翌朝阿弥陀堂での宣誓文作成(翌朝阿弥陀堂での宣誓式に全員で唱和する文章)には、全員で真宗門徒としての心は、全員で真らとがい内容を要約しましたが…内容を要約しましたが…内容を要約しませと、(一) 仏法を聞いていく事なという聞法者としての道を歩むという聞法者としての道を歩むという聞法者としての道をであめた。同時に本廟において 忘 他印 れる 交代で勤 区 事もあ 一の方 める食事当番をつ 勃阿弥陀堂での宣した。終盤は、宣めって、忙しい体 との会話 『が長び

を見直し自らを確かめていく教通りにしたいという自分の人生きた。(二) 講義をとおして思いびを得て出発点に立つことがで えに 法し新たな朋を見出します。伝えます(一)今日の感動を後の人 えます(一)お寺に通って聞 (一) 今日の感動を後の人に 遇う事ができた。そして、 <u>こ</u>の (一) お念仏を申しま ح

> に月 きました。 て後期 H り 教習宗 に 本 参 廟 加同

よりお

で

0)

来ているのかと反省するばかり出遇い仏法僧について自覚が出感動を思い日々の生活に本願に感動を思い日々の生活に本願に不明を決るのが、 ジュールをのり越えることも、樹様のお世話で二洋三F02. 朋 き引率のスタッフの住職 疲 でにぎやかで楽しい の皆様立 れも消えた感じがしました。 方と自己紹 介や質問等に住職様、同 時間 教導中で教 もあ ケ 0 で 英岡

を感じてしまう世界がある。でを感じてしまう世界がある。でを感じてしまう世界がある。でがしまりではない。 きょうとすることにより無常で孤独が目の前にあり悩みを無言 が1~ した。思い通りになうよっ した。思い通りになうよっ とどう関係するのかについてで とどう関係するのかについてで 7 行く自分に成り、 「法を聞う が下がるのである。 くことで自分を越 り悩みを解決しよしりにならない人生 裏切ら え

さ朋

無常 する これが自然の道理でもある。 まな波を立て煩悩の花を散らす、間は風という縁によってさまざ て生きる身となるのである。 が始まるのであり苦悩をかかえし仏の言葉に依って生きる人生 人間は自分に あ を感じてしまうの な 分に合わ 1, いるの 現 実社会である で苦悩 で、 や思い せようと はするこ 聞 法

て作成したものを阿弥陀 み上げお誓い致しました。 くまで皆んなで意見を出し合っ 最終日は宣誓式 があり 堂 前 夜遅

ます。 今日の感動を後の人に お念仏を申します。 伝 え

でした。

お な の誓いに恥じぬ様こ 4寺に通 朋を見出します。 つて聞 新 た

活をしたいと思います。

れ

か

今 回 い出になる奉仕活動 気持で帰宅しました。 影堂門に登り釈 奉仕をさせて戴き ()迦三尊 とし 7

を

清

会長退任の挨拶

出 恒

会長職を退任致すこととなりまし た。在任中は格別のご鞭撻を賜り この様な大役は始めての経験で 今回の役員改選を機に、護持会

な余生の糧として生かせればと思 と、厚く感謝申し上げます。 今日まで勤めさせて戴きましたこ あり小生には大変厳しく重い職務 っております。 族の方々のご指導、ご協力を賜り でありましたが、会員・役員・寺 この貴重な経験を残された僅か

きます。 げまして、 護持会の益々の発展を祈念申し上 これからの光照寺並びに光照寺 退任の挨拶とさせて戴

長い間有り難う御座いました。

1 護持会会長に就任 佐々木 して 玄吾

私は七十九才四か月である。 持つかということである。何しろ 今一番心配していることは体力が 長に就任することになった。私が 光照寺まで片道二時間、 私は此の度、 私の住んでいる日野市から大宮 光照寺の護持会会 往復で

> 四時間 らなければならない。そのため足 かかる。途中駅の階段を通

散歩をしたり、此の間は高尾山ま がついてきた。 で出かけた。少し歩くことに自信 毎日歩いている。買物に行ったり、 そこで私は歩く訓練を始めた。

境目である」と。 テレビに釣られて起きているかが 者の風邪だ。その時、すぐ寝るか、 がもとで風邪気味になるのが高齢 したぐらいで、ブルッとし、それ の中に、「バスの停留所で立ち話を 十才を迎える時の感想である。そ 多野完治著を読んだ。波多野氏九 最近『吾れ老ゆ故に我在り』波

日々々歩みたいと思っている。 私はすぐ寝ることを心掛けて一

護持会総会報告」

本堂において開会され参加者は四 会総会が六月七日十時から光照寺 十六名でした。 平成二十年度第十回光照寺護持

玄吾師に蓮如上人御一代記聞書よ わせて仏教讃歌「真宗宗歌」・「い き、会員全員で婦人部の皆様に合 法話は元広島豊平道場主佐々木 |ち」・「恩徳讃」を唱和しました。 勤行 (正信偈同朋奉讃) に引き続

れました山田恒氏に感謝状と記念

御住職より挨拶を賜り、

退任さ

共に願いたいというお話でした。 歎異抄九条のお言葉に尽きる。 ときのわれらがためなり」という それは「他力の悲願は、かくのご にお念仏に出会った喜びがある。 量の用きで摂取不捨されるところ ない自己が照らし出され、 無量の用きによって救われようの る」と題しお話頂きました。「仏法 り「仏法は、讃嘆・談合にきわま 子々孫々まで仏法が伝わることを は一人居て悦ぶ法なり」とは光明 寿命無

役員は留任となりました。 副会長の土田一冨三氏が退任され され、挨拶を頂きました。また、 遂行されました山田恒氏が退任さ 護持会設立当初より会長の任務を 入り、役員改正が行われました。 山田邦興氏が就任しました。 れ、新会長に佐々木玄吾氏が就任 総会は山田恒氏を議長に議案に 他の

のバス旅行を企画しました。続い は十月三、四日に茨城大洗方面へ れも原案通り可決承認されました。 今年度の収支予算案が提案され何 績及び、護持会の収支決算と監査 と参加の呼びかけがありました。 した。今年度の活動計画案及び、 が報告され全会一致で承認されま 護持会活性化のための親睦旅行 続いて前年度の護持会の活動実 副住職より聞法会の内容紹介

> た。 門徒会員の委嘱状が授与されまし 佐々木玄吾氏、池田義郎氏には組 た山田氏、土田氏には庶務の、 が授与されました。退任されまし品が、新会長、新副会長に委嘱状

5 説されました。親鸞聖人七百五十 を唱和し閉会いたしました。 ンに映し出される御絵伝を見なが 間見る良い機会でした。スクリー 御絵伝が絵解きサークルにより解 がありました。引き続き親鸞聖人 始めての参加者の紹介と感話発表 回忌にあたり、 最後に全員で仏教讃歌「恩徳讃 総会終了後、 御恩徳に感謝のお念仏でした。 布教のご苦労を垣 お斎を頂きながら

力をお願い申し上げます。 今後とも皆様方のご支援、 ご協



護持会総会

.....

苦茶な願望に対して、現実は思い通 質を重んじても量り難いものがあり 死もあります。いのちの長短で人の 苦しまないで死にたい。という無茶 価値というものは量れません。逆に ミタ(量る)ということで、 るところに大きな間違いがあります。 ます。そもそもいのちを量ろうとす 元気で長生きして、欲望満足して、 阿弥陀という言葉は、 ア(~ない 「量れない

数ケ月の死もあれば、百歳を越えた ひとくちに死といっても様々です らだと自分なりに分析しています。 その心境が持続していれば良いので ないということに落ち着けているか た。その「何か」とは、量ることが必要 大きな世界を南無して欲し 仏を願うのではなく、 込まれて、不平不満が生じます。 手を合わせると何かホッとする

りになりません。量らってば

いうことを以前はよく耳にしまし 念仏申すということは、故人の成 ^、縁しだいで、煩悩の渦巻きに飲 、量りしれない

住職 釈 照



. അനതനതനതനത്തെ അത്തന്ത്രത്തനതനതനതനത്ത്



山田氏へ感謝状授与



総会 お斎での感話





総会 お斎での感話



す。多数のご参詣をお待ちしており お盆法要は二部制にて厳修致

九月二十三日 (水) 午後一時三十分

5 寺務所より

●法要のご案内

●盂蘭盆会法要

●秋季彼岸会法要 八月二日(日)、午前・午後の二部厳修

●報恩講

より厳修。

●聞法会のお知らせ 十月二十五日(日)午前十一時より厳修。

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

毎月開催。午後一時半~四時半ま で。講師は櫟暁先生。 にお尋ね下さい。 大経の会 日程は当寺

担当月別。お弁当持参して下さい。 ●我聞の会

時まで。講師は佐々木師と住職の 十月十三日(火)午前十時~午後三 七月二十日(月)、九月二十八日(月)、

七月七日(火)、九月七日(月)、十月 講師は住職。 一十八日(水)午後二時~四時まで。

微風学舎

学んでいます。 講師は副住職。「顕浄土」の教学を ●さいたま親鸞講座 毎月開催。 午後七時~九時まで。 日程は寺にお尋ね

川鍋ビル。八月八日(土)、十月十七 午後二時~四時まで。 (土)、十二月十二日(土)。 会場は大宮

●真宗のつどい

際はお寺にご連絡下さい。 会場は埼玉県内の寺院。ご参加の

意下さい。宜しくお願いします。 ご自宅で法事の際は駐車場をご用



池ポチャも楽しからずや花ふぶき 双眼鏡のぞく浮巣やつつがなし 克 光昭

停年を照らす我が道おぼろ月 順子

水木の花弁天池に散り込みぬ 角のばし尻尾をのばしかたつむり ラジオ体操新緑の影踏んで

踏み入り闇を破りぬ

今は亡き兄と来たりし奏楽堂今日

帰宅して開錠の音冷え冷えと一歩

の終りて清算の小銭を数える

花岡 要

鉢の土乾きてかなし櫻草 梨棚の跳ねたる枝も花盛 毎日の朝寝とがむる人もなし

布施 殺夫

朝練や桜散るちる中学生 進級やコミック棚へ一目散 春の空動くものとてなかりけり 花冷へや靖国に眠る二十三 鯉幟ベランダの波凪にけり 初場所や視線ぶつかる仕切線 伊佐沼や内気な風に波騒ぐ 竿竹屋花の下を潜り過ぐ

門徒集う門徒が担うそれが寺お寺にも山あり風も吹くものぞ 成田着菌の感染危ぶまる

私達はお互いに生かされている す。仏様の大きないのちの中に

のだという事を判らせてもらう

も辛いことも苦しいことも全部 りません。いいことも悪いこと ず、自分の事は自分で絶対に判 す。人間は自分自身が一番判ら せてもらう必要があると思いま

仏様にいただいたものなので

菜の花の溢るる横のバス停に会う 花・蘇芳に花水木などわが庭に春爛漫のひび が庭に春爛漫のひびきあり石楠和教夫



きの音に古里しのぶ ら散りて湖面いろどる 伊佐沼に溜息のよな風吹かば花び テーブルに主婦等寄り合いて会食 小名浜の渚に立ちて潮騒のささや 上の武将に花の散り舞う 子供らと勿來の遺跡を訪 人あらば心うきたつ ぬれば馬

は「からたちの花」を聴くなり 品枝

あどけなき顔恋しけれどいかんせ ースレシピネットより出す 孫達のよろこぶ姿今夏こそ梅ジュ んインフルエンザまんえんの時

百均で帽子ストッパーえらんでる

ネコの手で野菜を切ると手をきら 弟の顔自信に満つる 熟年夫婦仲よくみゆる ぬと我に教える義弟がいる 職員に習いしラーメン披露する義 ンジン炒めて義弟がのせる 鼻唄をうたいて作るラーメンにニ くる即席ラーメン 障害得て五十一年義弟が初めてつ



分自身がその様な状況を作って したらいいか判らない時に、自 らない事に遭って苦しくてどう ある。私達は人生でどうにもな の事は何も理解していないので る。私達はこの御遠忌テーマの 表しているからだというのであ たを生きている」で全てを言い 内容をこの「今、いのちがあな られた。理由はこの教授がこれ という言葉をパンフレットで見 た時、ある大学の先生が「 いるのだという事を本当に判ら から半年かけて大学で講義する いのちがあなたを生きている」 言葉に度々出合っているが本当 て唖然としたという話をしてお NHK深夜ラジオを聞

